臺灣日日新報
日本夕刊共十二頁
臺北市北門町二丁目一番地　臺灣新聞社
電話十一番　振替臺北一四一番　定價一箇月金五十錢　廣告料金別表

二月號は又も二大附録で大評判

主婦之友

(雑誌二倍大の附録)

(天皇陛下)九歳三百本暗記

(大學生一年で暗記する大計算の大懸賞)

逢初めてお産する若奥様の祕密相談

良人の收賄と妻の心得を語る座談會

三ミリス人形の作方大畫報

化粧の祕訣を聽く

貧家婦人が熱望する寶塚令嬢のお化粧

女學生や婦人が熱望する寶塚令嬢のお化粧

逢初めてお産する若奥様の祕密相談

良人の收賄と妻の心得を語る座談會

三ミリス人形の作方大畫報

化粧の祕訣を聽く

貧家婦人が熱望する寶塚令嬢のお化粧

雪に埋れた樺太國境の同胞慰問大画報

小國寶藏相高橋是清翁と語る山田わか

小學校の女先生がお母様方のための座談會

一圓の金を抱いて泣き崩れた悲劇の美人令嬢の言訳

一圓の金を抱いて泣き崩れた悲劇の美人令嬢の言訳

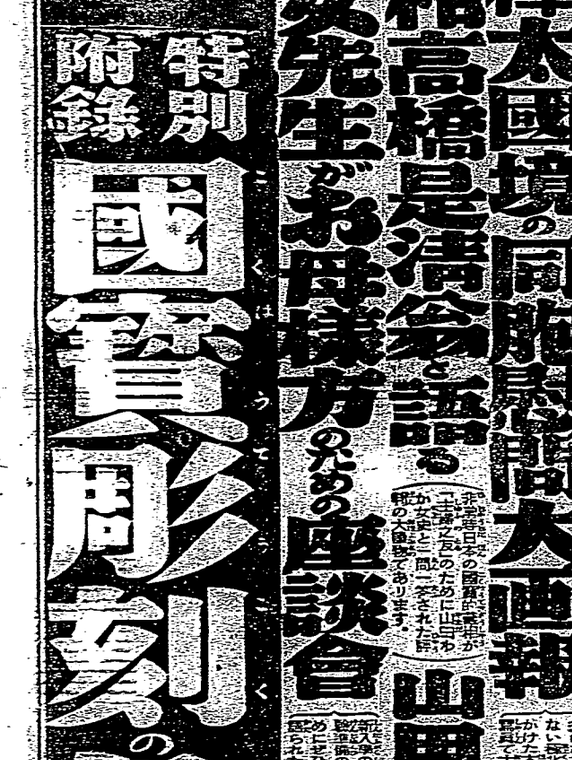
雪に埋れた樺太國境の同胞慰問大画報

小國寶藏相高橋是清翁と語る山田わか

小學校の女先生がお母様方のための座談會

特別附録　國寶彫刻の名作紙製置時計

(一)國寶の神功皇后の御尊像
(二)國寶の如意輪觀音の御尊像
(三)國寶の吉祥天女の御尊像



臺灣の阿片制度と其效果
吸食者減少の數に見よ

一

臺灣總督府の阿片制度は、阿片問題の解決に對し模範的典型として國際間に聲價たる光彩を放つて居ることは人の知る通りで、此の問題は政治上にも國際上にも將た人道の上からしても極めて重要なる意義を包藏して居るので、本島阿片制度の成果如何に就ては正に世界注視の的たるの觀がある、抑も此の制度の確立したる明治卅三年の當時は其の數十六萬九千人に過ぎざりし本島人中、實に昭和九年末に於ては僅かに一萬六千三百人に縮小し居たことは、我が政策の效果誠に顯著なるものあるの事實を、最も確然に物語るものでなければならない。

二

臺灣阿片制度の嚆矢とするところは、明治卅三年當初の總督に限り吸食を特許し其の他の者に對しては絕對禁遏の方針に出でたのである。併し其の後總督の變に隨るものも少くなかつたので、止むなく明治卅七八年に三萬餘人同四十一年に一萬五千餘人に對しそれぞれ新たに吸食を特許したかくて其の後二十餘年間は全然特許を行はずに來たのであつたが、多少制度上の缺陷もあり又た阿吸者が增加する傾向を示して來たので、ここに斷然總督の制令を發するの必要に迫られ、遂に昭和三年を以て臺灣阿片令を改正し、即四年より施行して一般的禁絕の方針を宣示すると共に漸次吸食者に對し制限を加ふることとなつた。臨時臺灣阿片調查會の設置、臨時臺灣阿片委員會の設置、阿片吸食者矯正の新政策を樹てて、同時に總督府專賣局官制を改正して阿片制度を理想化し取締を嚴重ならしめ、又た阿片吸食者矯正の新政策を實施するに當り、之が中樞機關として臺北帝國大學醫學部及臺南の各官立醫院を指定し、三百二十餘の病床を設けて矯正の效果を擧げ得る樣施設を整備するに至つた。

三

此の臺灣阿片令は昨年一月を以て一段落となし、同四月より全島各醫院の矯正醫務を打切り、臺北帝國大學醫學部及各州立病院の收容人員を五十人に縮小してそれの專屬として、臨時臺灣阿片矯正會の經營に委ねることとなつた。而して矯正會の實施後十月を經過した昭和九年末に於ける收容人員は僅かに二十七名であつた。

四

今後の阿片吸食者に對しては一方臺灣の衞生行政上醫療の擴充を期すると同時に、他方相當の罰則を設けて嚴正取締を施すべく、即ち刑事政策と衞生政策と相俟つて漸次に阿片吸食者の絕滅を期すべきものである。

五十萬元事件で
山口氏、遞相を難詰
我既得權拋棄を約束したのなら
國是を犯した重大問題だ……と

【東京二十三日發】後想を終つた第六十七議會は二十三日の衆議院本會議第二日目に於て、先づ政友會の山口義一氏が、去る十月十日の閣議に於て決定した臺灣銀行救濟の爲め五十萬元を支出する件に關し、次で憲政會天氏は二、三の點に關し、政府の所信を質すところがあつた。

山口義一氏（政友）

【東京二十三日發】山口義一氏は、先づ政友會の立場を明にし、次で床次遞相の所論を駁撃して、同相の辭職を迫つた。

山口

臺中市公會堂に
全島米穀大會開かる
五百餘名の米穀業者ら參集
決議文を關係者へ打電

【臺中電話】米穀民間調査會で可決した過剰米統制強化案を反對して設置以上にある農業者米穀關係者及び從業員等は廿三日午後一時半から臺中市公會堂に於て開催された臺中州米穀同業組合は特に業務を停止し全島各地の米穀關係者及び從業員等を以て臨時總會を開き、その數五百餘名の多きに達し流石に廣き公會堂も立錐の地なからしめ前會長佐藤氏の開會の辭に次で貝山好美氏會長を擧げて移入統制案を反對して以後の米穀統制の成行並にこれに對する措置協議の件、更に進んで今後會員は如何なる態度を執るべきかに上陸されんとする米穀法改正法案自治體整理案の內容と過剰米穀統制調査會の經過可決した過剰米統制案等に關し一分に決定された場合の臺灣米穀關係者及び從業員の重大なるものある旨を切實に說明し注意を喚起する所あつた、次いで各地米穀關係組合並に個人からなせる數十通の電報を朗讀し、最後に午後四時四十五分散會した

決議文

過剰米統制出率決定は現在の米穀生產狀況よりは實際以上に多きに失するものと認む且つ生產費の生活を脅威するものなるを以て絕對反對する右全島米穀大會に於て決議す

右決つて臨時中央に於ける米穀關係當局に打電した後で會長の座を退いた

採に採た市營店舖
原案を可決す

【新竹電話】新竹市協議會は第一日は午前時二十五分散會この日は傍聽席も二四名に過ぎなかつた有樣、缺席會員は次の如し（敬稱略）

一、諸岡　昨昭和年度豫算市議會出席總數十四名中缺席者左の三名

吉田、淸水田佐吉田、計缺席の四氏即ち

第一款　社會事業費
第二款　水道費
第三款　衞生費
第四款　勞働者住宅費
第五款　公園費
第六款　市設質屋費
第七款　基本財產造成費
第八款　財產費
第九款　諸稅及附加稅
第十款　諸收入
第十一款　繰越金
第十二款　雜收入
第十三款　市債
第十四款　臨時部
第十五款　特別會計
第十六款　豫備費
第十七款　諸種支出費

以上全部一括して上程大橋朋氏　質疑應答所の材料代金の件に付質疑あり

青木市尹　共に經營の必要は認めてゐるが此際で言明せよとは同情が薄い

李良弼氏　當局に續けと考慮中とか研究中とか逃口上を打つ、十二年度に還ると言明せよ

青木市尹　もう少し眞面目味のある

議長の映畫說明に
協議會員ら傾聽
獨身宿舍新營と葬儀堂で
議場大いに賑ふ

國物ばかりは「ヨヤ」人が携つてゐる作品が多い、「ヨヤ」人は世界の富の五分の三を持つと云はれ「ヨヤ」人を知らぬ人はすべきか悩んでをり、「ヨヤ」人は世界隈」を批判し現在の世界各國を破顏して紹介するには現物を映寫するより、その一つとして映畫を利用するやに聞き及んでゐる、眞の日本人には米國物は當然不用との考へであるが、見物人の好みもあり有樣はイルムの選擇に腐心してゐるが米國物のすばらしい點とは云はぬ諸氏も映畫をよく味ひ業者として一般の指導に當らんことを切々として映畫を終つた

田中消防組頭　消防設具は安いものであるからそれはよいと思ひ市で公共的の購入され、いざと云ふ場合にだけして用に立たぬ消防設具の公私は警察の指定に關わりたくはないか

木佐貫參與　獨身者宿舍料支給の明細の印刷物を配付して獨身宿舍建設は事業の急ぐ會ふ云ふのでなく市財政を巧利的にするが爲めに計上したものでその考で審議願ひたい

この時張氏參與氏　第一公學校通學區內貸店舖新營竝に獨身宿舍新營費

木佐貫參與　動議成立の即ち二百圓の建設費は全額の說明にも明かな如く一公學校に關する起債の重要な財源的意義を有するのでこれを否決すれば許容し一公學校の移轉は何うなるかわからない、從て眼前の利害に捉はれ大局を誤ることなく原案に贊成したい

と原案贊成說をなし動議に贊成を起立に問つた結果贊成者多く動議成立す

太田眞助氏　市營店舖設は保留獨身舍建設原案は全員の說明にも明かな如く一公學校に關する起債の重要な財源的意義を有するのでこれを否決すれば許容し一公學校の移轉は何うなるかわからない、從て眼前の利害に捉はれ大局を誤ることなく原案に贊成したいと原案贊成說をなし動議に贊成を起立に問つた結果贊成者多く動議成立す

午後一時半休憩、午後一時

青木議長　貸店舖建設は保留獨身舍建設は原案の說明にも明かな如く起債の重要な財源的意義を有するのでこれを否決すれば許容し一公學校の移轉は何うなるかわからない、從て眼前の利害に捉はれ大局を誤ることなく原案に贊成したいと原案贊成說をなし動議に贊成を起立に問つた結果贊成者多く動議成立す

午後二時十五分再開

犬塚氏の動議
成立

張式毅氏の動議に賛成で犬塚氏の動議成立す

太田眞助氏　市營店舖及び獨身舍宿舍建設原案は全員の說明にも明かな如く一公學校に關する起債の重要な財源的意義を有するのでこれを否決すれば許容し一公學校の移轉は何うなるかわからない、從て眼前の利害に捉はれ大局を誤ることなく原案に贊成したいと原案贊成說をなし動議に贊成を起立に問つた結果贊成者多く動議成立す

午後二時十五分再開

授業料を廢す
る考なし

青木市尹　授業料を廢止し旨敎育を增加せしめることに旨意を持たぬ又當市公費の利息は他都市より最も低く赤字さへ出してゐる際上げよとは當局出來ぬ

會議長指名　木佐貫參與氏　貸店舖建設は保留獨身舍建設は原案の說明にも明かな如く一公學校に關する起債の重要な財源的意義を有するのでこれを否決すれば許容し一公學校の移轉は何うなるかわからない、從て眼前の利害に捉はれ大局を誤ることなく原案に贊成したいと原案贊成說をなし動議に贊成を起立に問つた結果贊成者多く動議成立す

午後二時十五分再開

孵化池を作つて
公魚を養殖

【臺中電話】臺中州新高郡下の有志者間では先般來組合を組織して目下鹿兒島縣の池田湖産を移入して人工孵化を實施する計畫中であつたが愈々近く工事に著手することに決定公魚の卵は二月中旬

が月末は豆粒程地である、二千四百尺の高地にあり平地に於る湖沼の水溫より常に低溫である此の特異性を利用して孵化する事が計畫通り成功すれば養殖に於る特異の事業として將來大いに見るべきものありと期待されてゐる

午後二時十五分再開

授業料を廢す
る考なし

もつと低くせよ

青木市尹　授業料を廢止し旨敎育を增加せしめることに旨意を持たぬ又當市公費の利息は他都市より最も低く赤字さへ出してゐる際上げよとは當局出來ぬ

會議長指名　木佐貫參與氏　貸店舖建設は保留獨身舍建設は原案の說明にも明かな如く一公學校に關する起債の重要な財源的意義を有するのでこれを否決すれば許容し一公學校の移轉は何うなるかわからない、從て眼前の利害に捉はれ大局を誤ることなく原案に贊成したいと原案贊成說をなし動議に贊成を起立に問つた結果贊成者多く動議成立す

午後二時十五分再開

犬塚氏の動議
成立

張式毅氏の動議に賛成で犬塚氏の動議成立す

太田眞助氏　市營店舖及び獨身舍宿舍建設原案は全員の說明にも明かな如く一公學校に關する起債の重要な財源的意義を有するのでこれを否決すれば許容し一公學校の移轉は何うなるかわからない、從て眼前の利害に捉はれ大局を誤ることなく原案に贊成したいと原案贊成說をなし動議に贊成を起立に問つた結果贊成者多く動議成立す

午後二時十五分再開

各地信組總會

豐水　豐原外新庄埔里水街庄水信用組合は去る十五日總代會に於て理事伊藤氏外五名監事伊藤氏外二名任期滿了改選の件に付き前任者中より理事五名監事二名任期滿了改選の件に付き前任者中より理事五名監事二名を選擧したる處左の如く當選したので最も大多數の得票者を以て組合長に推薦する筈

理事　伊藤一二、黃國、陳順、王振國清、張枝、張枝、王振國清、張枝、張枝、王振國清、張枝、張枝

監事　陳順、王振國清、張枝、張枝

第一款　社會事業費
第二款　水道費
第三款　衞生費
第四款　勞働者住宅費
第五款　公園費
第六款　市設質屋費
第七款　基本財產造成費
第八款　財產費
第九款　諸稅及附加稅
第十款　諸收入
第十一款　繰越金
第十二款　雜收入
第十三款　市債
第十四款　臨時部
第十五款　特別會計
第十六款　豫備費
第十七款　諸種支出費

以上全部一括して上程大橋朋氏　質疑應答所の材料代金の件に付質疑あり

青木市尹　共に經營の必要は認めてゐるが此際で言明せよとは同情が薄い

李良弼氏　當局に續けと考慮中とか研究中とか逃口上を打つ、十二年度に還ると言明せよ

青木市尹　もう少し眞面目味のある

議長の映畫說明に
協議會員ら傾聽
獨身宿舍新營と葬儀堂で
議場大いに賑ふ

國物ばかりは「ヨヤ」人が携つてゐる作品が多い、「ヨヤ」人は世界の富の五分の三を持つと云はれ「ヨヤ」人を知らぬ人はすべきか悩んでをり、「ヨヤ」人は世界隈」を批判し現在の世界各國を破顏して紹介するには現物を映寫するより、その一つとして映畫を利用するやに聞き及んでゐる、眞の日本人には米國物は當然不用との考へであるが、見物人の好みもあり有樣はイルムの選擇に腐心してゐるが米國物のすばらしい點とは云はぬ諸氏も映畫をよく味ひ業者として一般の指導に當らんことを切々として映畫を終つた

田中消防組頭　消防設具は安いものであるからそれはよいと思ひ市で公共的の購入され、いざと云ふ場合にだけして用に立たぬ消防設具の公私は警察の指定に關わりたくはないか

木佐貫參與　獨身者宿舍料支給の明細の印刷物を配付して獨身宿舍建設は事業の急ぐ會ふ云ふのでなく市財政を巧利的にするが爲めに計上したものでその考で審議願ひたい

この時張氏參與氏　第一公學校通學區內貸店舖新營竝に獨身宿舍新營費

木佐貫參與　動議成立の即ち二百圓の建設費は全額の說明にも明かな如く一公學校に關する起債の重要な財源的意義を有するのでこれを否決すれば許容し一公學校の移轉は何うなるかわからない、從て眼前の利害に捉はれ大局を誤ることなく原案に贊成したいと原案贊成說をなし動議に贊成を起立に問つた結果贊成者多く動議成立す

午後二時十五分再開

犬塚氏の動議
成立

張式毅氏の動議に賛成で犬塚氏の動議成立す

太田眞助氏　市營店舖及び獨身舍宿舍建設原案は全員の說明にも明かな如く一公學校に關する起債の重要な財源的意義を有するのでこれを否決すれば許容し一公學校の移轉は何うなるかわからない、從て眼前の利害に捉はれ大局を誤ることなく原案に贊成したいと原案贊成說をなし動議に贊成を起立に問つた結果贊成者多く動議成立す

午後二時十五分再開

各地信組總會

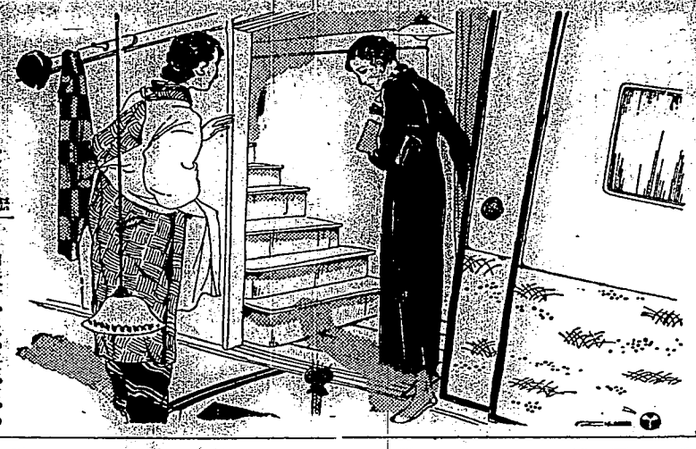
豐水　豐原外新庄埔里水街庄水信用組合は去る十五日總代會に於て理事伊藤氏外五名監事伊藤氏外二名任期滿了改選の件に付き前任者中より理事五名監事二名を選擧したる處左の如く當選したので最も大多數の得票者を以て組合長に推薦する筈

理事　伊藤一二、黃國、陳順

哭くな青春

(107)

三上於菟吉　郁二郎　畫



新しき日（その四）

さっきは、牛込奥のわが家の、小さな門のくぐり戸を、出來るだけしづかに引き開けたとき、ベルの音がジリジリとひびいたのが、隣に聞きとがめやしなかったかと、胸潰い、びっくりに、やっとの思ひではいると、小をんなが出て來て「まあ、お嬢さん——おかへりなさいまし、おくさまが、それは、おまちになっていらっしゃいました」

と、心安だてのやうに言ふのだったが、いつもは、とく聞く、かあいらしい子だと考へてゐた、その娘の顔が、晩みつけたかのやうに、ふてって見せて、私に、ひどく考へ込んでばかりゐて、家中とんまりロも利かないやうな、姉のせつ子が、わざ〳〵出迎へて、

「まあ、さつきさん、どうしてゐたのか、ほんたうに、どんなに心配したか知れやしないことよ——どこに、電話をかけてゐるところが知れないのだもの——」

さっきは、せつ子が、どうもがいても、職業が見つからぬためか云はば出戻りの女にでも見るやうな、妙にひねくれた、暗い表情になってしまってゐるのに同情して、こちらから出來るだけさじくしてゐるのだが、この瞬間、姉の顔にうかんだ、ひどく猜疑なこはばった暗いものを感じると、慣けない氣がして來た。

——まあ、お姉さまには、あたしが、苦しい破目に落ちてゐるのをよろこんでいらっしゃるわ——

そんな風に思ったとき、相手はつけたすのだった。

「叔母さん先生のお宅へも、おたづねにたち、おとどひの夕方寄ったまま顔を見せないとおっしゃるのよ。さあ、おかあさまが、すっかり、お案じになってしまって——」

「あゝそうですしたわ——いろんなことがあったものだから——」

さっきは、そのまま二階に上らうとした。

「まあ、おかあさまに、只今もしないで、お部屋へ行ってしまふの？」

「著物に著かへて、すぐに來ますわ。」

彼女は、さう小さく言って、あてがはれてゐる二階の小間にはいると、ぴたりと、入口の襖を締めて、バタを投げ出すと、そのまま蒲團の上に顔をおさへてしまった。

すべてが、變の如く、はこんでゐるのだった。考へてゐたよりも、もっと悪く進行してゐるのだった。數日前、せつ子の家に用があるから、夜になって手傳はねばならぬなどと、出まかせを言ひに行ったことまで、すっかり感いつはりだったといふことまで、ばれてしまってゐるのだった。

——あたし、どうしたらいいだらう？　その上、お姉さまへ、あんなにひどくおっしゃるなんて——

彼女は、せつ子に、裂がありたところ、どんなに自分が、惡になり日向になり、ためになってやったか思ひ出した。

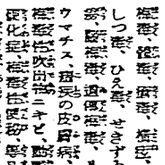
——それなのに、何もあんなに言はなくっても——

さっきは、部屋の中に突っ立ってゐたが、すると、階下の母の寢間で、姉が、物をしげに言ってゐるのが聞こえる——

「さっきは、すっかり驚れてしまってすまなかったよ——どうしたんでせうほんとうに——

——どうしたのでもないわ。感してゐるわけだわ。

さっきは反抗的に、こんな風に聞いて、激昂のフックをはづしはじめた。



午前の部

【六・二〇】朝の挨拶　ラヂオ體操　入門者のお天氣のお知らせ…

【七・二〇】家庭百科講座（二十二日の題目が發表される）

【九・二〇】家庭百科講座（東京）

【一〇・一〇】家庭料理献立（東北農山漁村發表）

午後の部

【一二・五九】正午の時報（気象通報（東北の分）　東北農山漁村ニュース

【〇・一〇】放送局報

【〇・一〇】實演（ジャズ一曲を追ひかけ何處までも　フォックストロット二曲　山の祭典（タンゴ）ヘンリー・ホール管絃樂團　三コルドバ・ラ・ポニータ（シクラスエイト）四、シリビリビン（ワルツ）ガルドニ・アンサンブル（街頭音樂店頭音樂　實演音樂會　日本ビクター和洋合奏團

【〇・五〇】經濟市況に引續いて、內務部定期船舶降入港時刻と接續列車時刻のお知らせ　鐵道部運輸課發表

【一・〇〇】氣象通報（東京のみ）　東京測候所發表

夜間の部

【五・〇〇】子供の時間（東京）　童話劇（殿様と蛙（塚本哉久夫作、吉原規作曲　東京子供グループ

【五・二〇】コドモの新聞（東京）　村岡花子

【五・二五】管絃樂座（東京）　中等英語（第二講）　梅谷貞一、テキスト一部二十五錢、資料四錢

【五・五五】カレント・トピックス（東京）　ニュートン・エドガース

【六・〇〇】子供の時間（東北）　兒童劇（吾輩は猫である　漫筆子供サークル、御主人、村越榮一、猫デンー加藤直伸、一部第一馬場那彦、幸子さん、金井ヤヤ子セパード犬エス一號熊、少年甲一原徹、少年乙一池上三郎黒猫一本多等

【六・三〇】御製御歌奉誦（東京）（御歌御會始御發表當日K演奏者十一）　解説（宮内省歌所寄人千葉胤明）　講師（歌所參與伯爵阪正臣）　宮内省歌所講師今園國貞、奏樂（宮内省御歌所樂部）　指揮（歌所樂長伯爵田邊尚雄）　同歌所主任

【七・〇〇】獨唱と管絃樂（東京）　獨唱（ネトケ・レッヴェ、管絃樂（日本放送交響樂團、指揮（近衛秀麿）　一歌劇「フィガロの結婚」序曲（モーツアルト作曲）二獨唱（シューバート作曲の魔王）夜と夢（シューベルト作曲の三つ）（ネ）歌（ネトケ・レッヴェ）　序曲第二番（ベートーヴェン作曲）

【七・五〇】浪花節（大阪二）　阿部備後守隅田川乗切り　旨吉川秋水

【八・〇〇】時報（東京）

【八・二〇】ジャズ（管絃のみ）　ホソダ　ジャズ・バンド、獨唱一小島謙太郎　一夏なつめて（フォックス・トロット）二、あなたの夢のに（フォックス・トロット）三、ハットセレナード（フォックス・トロット）四、ハットセレナードのうて（時間音羽作詞　田村しげる作曲）五、旋風（坂村眞民作詞　三界秋作曲　六、ジンとあの頃（フォックス・トロット）七、忘れた娘（ワルツ）

【九・〇〇】動物の鳴真似（東北のみ　石川鳴動

【八・二〇】（東京）

【八・三〇】英語（第二講）　梅谷貞一、テキスト一部二十五錢、資料四錢

【八・五五】カレント・トピックス（東京）　ニュートン・エドガース

【九・〇〇】子供の時間（東北）　兒童劇（吾輩は猫である　漫筆子供サークル、御主人、村越榮一、猫デンー加藤直伸、一部第一馬場那彦、幸子さん、金井ヤヤ子セパード犬エス一號熊、少年甲一原徹、少年乙一池上三郎黒猫一本多等

【九・三〇】御製御歌奉誦（東京）（御歌御會始御發表當日K演奏者十一）　解説（宮内省歌所寄人千葉胤明）　講師（歌所參與伯爵阪正臣）　宮内省歌所講師今園國貞、奏樂（宮内省御歌所樂部）　指揮（歌所樂長伯爵田邊尚雄）　同歌所主任

【七・〇〇】獨唱と管絃樂（東京）　獨唱（ネトケ・レッヴェ、管絃樂（日本放送交響樂團、指揮（近衛秀麿）　一歌劇「フィガロの結婚」序曲（モーツアルト作曲）二獨唱（シューバート作曲の魔王）夜と夢（シューベルト作曲の三つ）（ネ）歌（ネトケ・レッヴェ）　序曲第二番（ベートーヴェン作曲）

【七・五〇】浪花節（大阪二）　阿部備後守隅田川乗切り　旨吉川秋水

【八・〇〇】時報（東京）

【八・二〇】ジャズ（管絃のみ）　ホソダ　ジャズ・バンド、獨唱一小島謙太郎　一夏なつめて（フォックス・トロット）二、あなたの夢のに（フォックス・トロット）三、ハットセレナード（フォックス・トロット）四、ハットセレナードのうて（時間音羽作詞　田村しげる作曲）五、旋風（坂村眞民作詞　三界秋作曲　六、ジンとあの頃（フォックス・トロット）七、忘れた娘（ワルツ）

【九・〇〇】動物の鳴真似（東北のみ　石川鳴動

【八・三〇】（東京）

【八・五五】夢と尺八（一）　青山の池（管絃樂下倉敏、宮城道雄作曲）尺八、中田慶山、唄、箏、東穀子、二、鮒（鳥羽源蔵曲、宮城道雄作曲）唄、箏、東穀子（ニ）太鼓獨奏　ピアノ伴奏　マッキントッシュ一部ナイ、時計臺の鐘（高等女作曲）、鬢髪　足立英二作詞、山田耕作作曲）ハ、からたちの花（北原白秋作詞、山田耕作作曲）ニ、赤とんぼ（三木露風作曲）ホ、無き家庭（作曲者）ロ、無き家庭（ピアノ獨

滿洲國に日本の圓爲替本位を

銀の影響で動搖常なきに鑑み 關係筋での協議注目さる

【ワシントン二十一日發電通】日本の對滿投資額が滿洲國の圓爲替本位に關聯して重大なる關係を有するに鑑み、滿洲國に日本の圓爲替本位を使用せしむる可能性につき滿洲國の銀行家と協議したとの情報傳はり關係方面の關心を集中してゐるが、利害關係ある方面の見解の大部分は眼を使用する賛成がついてゐる

二、日本の圓を使用せしむるやうなことをすれば滿洲國の獨立國たる外觀が失はれる等の理由で實施可能性なしとしてゐるが、關係方面では滿洲國に於ける日本の經濟的勢力を增大しこれに伴ひ日本の圓の流通が增加し且つ滿洲國銀行の準備金として日本の圓が次第に多く使用されるに連れ將來實現の可能性ありとなし現行注目されてゐる

アメリカの銀政策 方向轉換か

銀派議員の覺醒

【ワシントン二十一日發電通】アメリカ政府は世界の經濟恐慌者連は銀の相場を世界的に昂めることは、支那の購買及び財政を不安定ならしめ、且つ銀塊流出の傾向を緩らしめ日本にとつても都合上の好都合を與したのに止まり、從つて日本生絲、日本米に若干の影響上の好都合を與したのに止まり、從つて日本に於て日本としては決してアメリカの銀政策に反抗の必要を感じてゐない事が今や明瞭にされるに至つた譯である、斯くて上院銀派議員も今般の銀重動は右傾向を轉機として新しき方向に轉回を示すものと觀測されてゐる

始すべく而して其の成功確實と認營してゐるが、從つてアメリカ財務當局も現行聯邦準備銀行制度を改革し聯邦政府の監督下に中央銀行制度を確立する意向ありと傳へられてゐる

分蜜糖は 內地高島內安

砂糖の消費相場は實需閑散なる歩留不良の爲め出廻り案外多くないのと分蜜糖の實需旺盛で堅トをしない限り三月迄に三千萬擔の不足を告げる模様であり强氣機關の買廻强く一月限十二圓八十錢、六月限十四圓四十錢臺と一時より二十錢以上高騰したが島內市場は一月に入り强氣を阻始した滅關稅

更に躍進を示せる 對滿、支、南洋貿易

輸出は六百九十萬圓の激增 輸入は八十四萬圓の減退

滿洲、支那、南洋輸出貿易は續進して昭和九年中の輸出總額二千七百六十二萬六千五百三十八圓に達し、八年の二千七十二萬三百六十九圓に比較して六百九十一萬六千百六十九圓を躍進してゐる、之を仕向地別に見るに次の如くとなる

九年輸出　增△減

支那	一、四二六、六八一	四二、三〇三
滿洲國	一、一五〇、四四七	三五、六三四
大連	六四四、五八四	一五、八八六
香港	二六、九五〇	△一、〇四三
澳門	七、五四〇	一、九八一
南洋	一、四九五、〇四二	△八四、二六八
計	二六、〇六五、二六八	△四四、六七四

輸入は總額二千八百三萬六千二百十六圓に上り、香港からの輸入が著しく減少したため八年に比し八十四萬三千六百七十九圓の激減を來してゐる次の如し

九年輸入　增△減

支那	四、四五九、六八一	三九、〇三一
滿洲國	一、一五〇、四四七	三五、六三四
大連	六四四、五八四	一五、八八六
香港	二六、九五〇	△一、〇四三
澳門	七、五四〇	一、九八一
南洋	一、四九五、〇四二	△八四、二六八
計	二六、〇六五、二六八	△四四、六七四

基隆自動車 流水交通社へ 讓渡を可決

基隆市街自動車會社では既報の如くその權利と株券を流水交通社へ讓渡することになつたに付、十二日午前十時より基北市北一町の臺灣土地建物會社にて臨時株主總會を開き右讓渡の件を付議したところ同會異議なくこれを承認十一時散會した、讓渡價格は五十圓拂込濟一株に付二十圓であるが役員職員らの退職慰勞金を流水側より支出する關係上本月三十日に一千株の內六百株だけを一萬五千圓と引替に流水側へ讓渡することとなり殘り四百株は八、九月頃に讓渡する筈で手續上今一度二月中旬頃臨時總會を開き現在の取締役全部三菱、木村、池田、櫻井、山內、籠野監査役從宮、中辻、田中（庄吉）の十氏は辭任し流水側の人が代つて役員に就任する筈である

三五會總會

業家の研究會親睦機關たる三五會では二十六日午後五時梅屋敷に於いて第二回總會を開く由、附議事項は役務及會計報告、役員の任期滿了に付改選の件、新會員の紹介其他である

臺中米價（二十三日）

蓬萊米一〇圓一七錢、九錢一圓六〇錢、出來高蓬萊米七、〇九〇袋九錢二、二八七袋（發市場場）

商況（廿三日）

米況

臺米現物相場

基隆	對比	對日	對比
二期安	八四八	同	一安
同	一〇〇八	同	同
同	一〇〇八	同	同
二期在來米		同	同
二期蓬萊米		同	同
二期在來米		同	同
二期蓬萊米		同	同
二期在來米		同	同
二期蓬萊米		同	同
二期在來米		同	同
二期蓬萊米		同	同
二期在來米		同	同
二期蓬萊米		同	同
二期在來米		同	同
二期蓬萊米		同	同
二期在來米		同	同
二期蓬萊米		同	同
二期在來米		同	同

基隆在庫米

（二十三日調現在）

六、八六八	五四八
五、八三四	三、八〇〇
合計	一〇八、〇三三
到着	五八、〇〇〇
合計	一六五、〇三三
三五、〇〇〇	同
七、〇〇〇	同
四四、三三六	同
二一、七六	同

高雄在庫米

（二十三日調現在）

一、五〇〇	同
三、五〇〇	同
一、〇〇〇	同
二、〇〇〇	同
二、〇〇〇	同
二、〇〇〇	同

正米市況後場

▲二期九錢安　開盤　中間　先限　一〇二、九　一、〇三五　一、〇四六　一、〇四五　一、〇四四　一、〇四三　一、〇四二　一、〇四一　一、〇四〇　一、〇三九　一、〇三八　一、〇三七　一、〇三六　一、〇三五　一、〇三四　一、〇三三　一、〇三二　一、〇三一　一、〇三〇　一、〇二九　一、〇二八　一、〇二七　一、〇二六　一、〇二五　一、〇二四　一、〇二三　一、〇二二　一、〇二一　一、〇二〇　一、〇一九　一、〇一八　一、〇一七　一、〇一六　一、〇一五　一、〇一四　一、〇一三　一、〇一二　一、〇一一　一、〇一〇　一、〇〇九　一、〇〇八　一、〇〇七　一、〇〇六　一、〇〇五　一、〇〇四　一、〇〇三　一、〇〇二　一、〇〇一　一、〇〇〇　九九九　九九八　九九七　九九六　九九五　九九四　九九三　九九二　九九一　九九〇　九八九　九八八　九八七　九八六　九八五　九八四　九八三　九八二　九八一　九八〇　九七九　九七八　九七七　九七六　九七五　九七四　九七三　九七二　九七一　九七〇　九六九　九六八　九六七　九六六　九六五　九六四　九六三　九六二　九六一　九六〇　九五九　九五八　九五七　九五六　九五五　九五四　九五三　九五二　九五一　九五〇　九四九　九四八　九四七　九四六　九四五　九四四　九四三　九四二　九四一　九四〇　九三九　九三八　九三七　九三六　九三五　九三四　九三三　九三二　九三一　九三〇　九二九　九二八　九二七　九二六　九二五　九二四　九二三　九二二　九二一　九二〇　九一九　九一八　九一七　九一六　九一五　九一四　九一三　九一二　九一一　九一〇　九〇九　九〇八　九〇七　九〇六　九〇五　九〇四　九〇三　九〇二　九〇一　九〇〇　八九九　八九八　八九七　八九六　八九五　八九四　八九三　八九二　八九一　八九〇　八八九　八八八　八八七　八八六　八八五　八八四　八八三　八八二　八八一　八八〇　八七九　八七八　八七七　八七六　八七五　八七四　八七三　八七二　八七一　八七〇　八六九　八六八　八六七　八六六　八六五　八六四　八六三　八六二　八六一　八六〇　八五九　八五八　八五七　八五六　八五五　八五四　八五三　八五二　八五一　八五〇　八四九　八四八　八四七　八四六　八四五　八四四　八四三　八四二　八四一　八四〇　八三九　八三八　八三七　八三六　八三五　八三四　八三三　八三二　八三一　八三〇　八二九　八二八　八二七　八二六　八二五　八二四　八二三　八二二　八二一　八二〇　八一九　八一八　八一七　八一六　八一五　八一四　八一三　八一二　八一一　八一〇　八〇九　八〇八　八〇七　八〇六　八〇五　八〇四　八〇三　八〇二　八〇一　八〇〇　七九九　七九八　七九七　七九六　七九五　七九四　七九三　七九二　七九一　七九〇　七八九　七八八　七八七　七八六　七八五　七八四　七八三　七八二　七八一　七八〇　七七九　七七八　七七七　七七六　七七五　七七四　七七三　七七二　七七一　七七〇　七六九　七六八　七六七　七六六　七六五　七六四　七六三　七六二　七六一　七六〇　七五九　七五八　七五七　七五六　七五五　七五四　七五三　七五二　七五一　七五〇　七四九　七四八　七四七　七四六　七四五　七四四　七四三　七四二　七四一　七四〇　七三九　七三八　七三七　七三六　七三五　七三四　七三三　七三二　七三一　七三〇　七二九　七二八　七二七　七二六　七二五　七二四　七二三　七二二　七二一　七二〇　七一九　七一八　七一七　七一六　七一五　七一四　七一三　七一二　七一一　七一〇　七〇九　七〇八　七〇七　七〇六　七〇五　七〇四　七〇三　七〇二　七〇一　七〇〇　六九九　六九八　六九七　六九六　六九五　六九四　六九三　六九二　六九一　六九〇　六八九　六八八　六八七　六八六　六八五　六八四　六八三　六八二　六八一　六八〇　六七九　六七八　六七七　六七六　六七五　六七四　六七三　六七二　六七一　六七〇　六六九　六六八　六六七　六六六　六六五　六六四　六六三　六六二　六六一　六六〇　六五九　六五八　六五七　六五六　六五五　六五四　六五三　六五二　六五一　六五〇　六四九　六四八　六四七　六四六　六四五　六四四　六四三　六四二　六四一　六四〇　六三九　六三八　六三七　六三六　六三五　六三四　六三三　六三二　六三一　六三〇　六二九　六二八　六二七　六二六　六二五　六二四　六二三　六二二　六二一　六二〇　六一九　六一八　六一七　六一六　六一五　六一四　六一三　六一二　六一一　六一〇　六〇九　六〇八　六〇七　六〇六　六〇五　六〇四　六〇三　六〇二　六〇一　六〇〇　五九九　五九八　五九七　五九六　五九五　五九四　五九三　五九二　五九一　五九〇　五八九　五八八　五八七　五八六　五八五　五八四　五八三　五八二　五八一　五八〇　五七九　五七八　五七七　五七六　五七五　五七四　五七三　五七二　五七一　五七〇　五六九　五六八　五六七　五六六　五六五　五六四　五六三　五六二　五六一　五六〇　五五九　五五八　五五七　五五六　五五五　五五四　五五三　五五二　五五一　五五〇　五四九　五四八　五四七　五四六　五四五　五四四　五四三　五四二　五四一　五四〇　五三九　五三八　五三七　五三六　五三五　五三四　五三三　五三二　五三一　五三〇　五二九　五二八　五二七　五二六　五二五　五二四　五二三　五二二　五二一　五二〇　五一九　五一八　五一七　五一六　五一五　五一四　五一三　五一二　五一一　五一〇　五〇九　五〇八　五〇七　五〇六　五〇五　五〇四　五〇三　五〇二　五〇一　五〇〇　四九九　四九八　四九七　四九六　四九五　四九四　四九三　四九二　四九一　四九〇　四八九　四八八　四八七　四八六　四八五　四八四　四八三　四八二　四八一　四八〇　四七九　四七八　四七七　四七六　四七五　四七四　四七三　四七二　四七一　四七〇　四六九　四六八　四六七　四六六　四六五　四六四　四六三　四六二　四六一　四六〇　四五九　四五八　四五七　四五六　四五五　四五四　四五三　四五二　四五一　四五〇　四四九　四四八　四四七　四四六　四四五　四四四　四四三　四四二　四四一　四四〇　四三九　四三八　四三七　四三六　四三五　四三四　四三三　四三二　四三一　四三〇　四二九　四二八　四二七　四二六　四二五　四二四　四二三　四二二　四二一　四二〇　四一九　四一八　四一七　四一六　四一五　四一四　四一三　四一二　四一一　四一〇　四〇九　四〇八　四〇七　四〇六　四〇五　四〇四　四〇三　四〇二　四〇一　四〇〇　三九九　三九八　三九七　三九六　三九五　三九四　三九三　三九二　三九一　三九〇　三八九　三八八　三八七　三八六　三八五　三八四　三八三　三八二　三八一　三八〇　三七九　三七八　三七七　三七六　三七五　三七四　三七三　三七二　三七一　三七〇　三六九　三六八　三六七　三六六　三六五　三六四　三六三　三六二　三六一　三六〇　三五九　三五八　三五七　三五六　三五五　三五四　三五三　三五二　三五一　三五〇　三四九　三四八　三四七　三四六　三四五　三四四　三四三　三四二　三四一　三四〇　三三九　三三八　三三七　三三六　三三五　三三四　三三三　三三二　三三一　三三〇　三二九　三二八　三二七　三二六　三二五　三二四　三二三　三二二　三二一　三二〇　三一九　三一八　三一七　三一六　三一五　三一四　三一三　三一二　三一一　三一〇　三〇九　三〇八　三〇七　三〇六　三〇五　三〇四　三〇三　三〇二　三〇一　三〇〇　二九九　二九八　二九七　二九六　二九五　二九四　二九三　二九二　二九一　二九〇　二八九　二八八　二八七　二八六　二八五　二八四　二八三　二八二　二八一　二八〇　二七九　二七八　二七七　二七六　二七五　二七四　二七三　二七二　二七一　二七〇　二六九　二六八　二六七　二六六　二六五　二六四　二六三　二六二　二六一　二六〇　二五九　二五八　二五七　二五六　二五五　二五四　二五三　二五二　二五一　二五〇　二四九　二四八　二四七　二四六　二四五　二四四　二四三　二四二　二四一　二四〇　二三九　二三八　二三七　二三六　二三五　二三四　二三三　二三二　二三一　二三〇　二二九　二二八　二二七　二二六　二二五　二二四　二二三　二二二　二二一　二二〇　二一九　二一八　二一七　二一六　二一五　二一四　二一三　二一二　二一一　二一〇　二〇九　二〇八　二〇七　二〇六　二〇五　二〇四　二〇三　二〇二　二〇一　二〇〇　一九九　一九八　一九七　一九六　一九五　一九四　一九三　一九二　一九一　一九〇　一八九　一八八　一八七　一八六　一八五　一八四　一八三　一八二　一八一　一八〇　一七九　一七八　一七七　一七六　一七五　一七四　一七三　一七二　一七一　一七〇　一六九　一六八　一六七　一六六　一六五　一六四　一六三　一六二　一六一　一六〇　一五九　一五八　一五七　一五六　一五五　一五四　一五三　一五二　一五一　一五〇　一四九　一四八　一四七　一四六　一四五　一四四　一四三　一四二　一四一　一四〇　一三九　一三八　一三七　一三六　一三五　一三四　一三三　一三二　一三一　一三〇　一二九　一二八　一二七　一二六　一二五　一二四　一二三　一二二　一二一　一二〇　一一九　一一八　一一七　一一六　一一五　一一四　一一三　一一二　一一一　一一〇　一〇九　一〇八　一〇七　一〇六　一〇五　一〇四　一〇三　一〇二　一〇一　一〇〇　九九　九八　九七　九六　九五　九四　九三　九二　九一　九〇　八九　八八　八七　八六　八五　八四　八三　八二　八一　八〇　七九　七八　七七　七六　七五　七四　七三　七二　七一　七〇　六九　六八　六七　六六　六五　六四　六三　六二　六一　六〇　五九　五八　五七　五六　五五　五四　五三　五二　五一　五〇　四九　四八　四七　四六　四五　四四　四三　四二　四一　四〇　三九　三八　三七　三六　三五　三四　三三　三二　三一　三〇　二九　二八　二七　二六　二五　二四　二三　二二　二一　二〇　一九　一八　一七　一六　一五　一四　一三　一二　一一　一〇　九　八　七　六　五　四　三　二　一

臺銀爲替

（二十三日）

一月廿三日	一二三、七〇
一月廿四日	一二三、六五
一月廿五日	一二三、六五
一月廿六日	一二三、六五
一月廿七日	一二三、六五
一月廿八日	一二三、六五
一月廿九日	一二三、六五
一月三十日	一二三、六五
一月三十一日	一二三、六五
二月一日	一二三、六五
二月二日	一二三、六五
二月三日	一二三、六五
二月四日	一二三、六五
二月五日	一二三、六五
二月六日	一二三、六五
二月七日	一二三、六五
二月八日	一二三、六五
二月九日	一二三、六五
二月十日	一二三、六五
二月十一日	一二三、六五
二月十二日	一二三、六五
二月十三日	一二三、六五
二月十四日	一二三、六五
二月十五日	一二三、六五
二月十六日	一二三、六五
二月十七日	一二三、六五
二月十八日	一二三、六五
二月十九日	一二三、六五
二月二十日	一二三、六五
二月二十一日	一二三、六五
二月二十二日	一二三、六五
二月二十三日	一二三、六五
二月二十四日	一二三、六五
二月二十五日	一二三、六五
二月二十六日	一二三、六五
二月二十七日	一二三、六五
二月二十八日	一二三、六五
二月二十九日	一二三、六五
三月一日	一二三、六五
三月二日	一二三、六五
三月三日	一二三、六五
三月四日	一二三、六五
三月五日	一二三、六五
三月六日	一二三、六五
三月七日	一二三、六五
三月八日	一二三、六五
三月九日	一二三、六五
三月十日	一二三、六五
三月十一日	一二三、六五
三月十二日	一二三、六五
三月十三日	一二三、六五
三月十四日	一二三、六五
三月十五日	一二三、六五
三月十六日	一二三、六五
三月十七日	一二三、六五
三月十八日	一二三、六五
三月十九日	一二三、六五
三月二十日	一二三、六五
三月二十一日	一二三、六五
三月二十二日	一二三、六五
三月二十三日	一二三、六五
三月二十四日	一二三、六五
三月二十五日	一二三、六五
三月二十六日	一二三、六五
三月二十七日	一二三、六五
三月二十八日	一二三、六五
三月二十九日	一二三、六五
三月三十日	一二三、六五
三月三十一日	一二三、六五
四月一日	一二三、六五
四月二日	一二三、六五
四月三日	一二三、六五
四月四日	一二三、六五
四月五日	一二三、六五
四月六日	一二三、六五
四月七日	一二三、六五
四月八日	一二三、六五
四月九日	一二三、六五
四月十日	一二三、六五
四月十一日	一二三、六五
四月十二日	一二三、六五
四月十三日	一二三、六五
四月十四日	一二三、六五
四月十五日	一二三、六五
四月十六日	一二三、六五
四月十七日	一二三、六五
四月十八日	一二三、六五
四月十九日	一二三、六五
四月二十日	一二三、六五
四月二十一日	一二三、六五
四月二十二日	一二三、六五
四月二十三日	一二三、六五
四月二十四日	一二三、六五
四月二十五日	一二三、六五
四月二十六日	一二三、六五
四月二十七日	一二三、六五
四月二十八日	一二三、六五
四月二十九日	一二三、六五
四月三十日	一二三、六五
五月一日	一二三、六五
五月二日	一二三、六五
五月三日	一二三、六五
五月四日	一二三、六五
五月五日	一二三、六五
五月六日	一二三、六五
五月七日	一二三、六五
五月八日	一二三、六五
五月九日	一二三、六五
五月十日	一二三、六五
五月十一日	一二三、六五
五月十二日	一二三、六五
五月十三日	一二三、六五
五月十四日	一二三、六五
五月十五日	一二三、六五
五月十六日	一二三、六五
五月十七日	一二三、六五
五月十八日	一二三、六五
五月十九日	一二三、六五
五月二十日	一二三、六五
五月二十一日	一二三、六五
五月二十二日	一二三、六五
五月二十三日	一二三、六五
五月二十四日	一二三、六五
五月二十五日	一二三、六五
五月二十六日	一二三、六五
五月二十七日	一二三、六五
五月二十八日	一二三、六五
五月二十九日	一二三、六五
五月三十日	一二三、六五
五月三十一日	一二三、六五
六月一日	一二三、六五
六月二日	一二三、六五
六月三日	一二三、六五
六月四日	一二三、六五
六月五日	一二三、六五
六月六日	一二三、六五
六月七日	一二三、六五
六月八日	一二三、六五
六月九日	一二三、六五
六月十日	一二三、六五
六月十一日	一二三、六五
六月十二日	一二三、六五
六月十三日	一二三、六五
六月十四日	一二三、六五
六月十五日	一二三、六五
六月十六日	一二三、六五
六月十七日	一二三、六五
六月十八日	一二三、六五
六月十九日	一二三、六五
六月二十日	一二三、六五
六月二十一日	一二三、六五
六月二十二日	一二三、六五
六月二十三日	一二三、六五
六月二十四日	一二三、六五
六月二十五日	一二三、六五
六月二十六日	一二三、六五
六月二十七日	一二三、六五
六月二十八日	一二三、六五
六月二十九日	一二三、六五
六月三十日	一二三、六五
七月一日	一二三、六五
七月二日	一二三、六五
七月三日	一二三、六五
七月四日	一二三、六五
七月五日	一二三、六五
七月六日	一二三、六五
七月七日	一二三、六五
七月八日	一二三、六五
七月九日	一二三、六五
七月十日	一二三、六五
七月十一日	一二三、六五
七月十二日	一二三、六五
七月十三日	一二三、六五
七月十四日	一二三、六五
七月十五日	一二三、六五
七月十六日	一二三、六五
七月十七日	一二三、六五
七月十八日	一二三、六五
七月十九日	一二三、六五
七月二十日	一二三、六五
七月二十一日	一二三、六五
七月二十二日	一二三、六五
七月二十三日	一二三、六五
七月二十四日	一二三、六五
七月二十五日	一二三、六五
七月二十六日	一二三、六五
七月二十七日	一二三、六五
七月二十八日	一二三、六五
七月二十九日	一二三、六五
七月三十日	一二三、六五
七月三十一日	一二三、六五
八月一日	一二三、六五
八月二日	一二三、六五
八月三日	一二三、六五
八月四日	一二三、六五
八月五日	一二三、六五
八月六日	一二三、六五
八月七日	一二三、六五
八月八日	一二三、六五
八月九日	一二三、六五
八月十日	一二三、六五
八月十一日	一二三、六五
八月十二日	一二三、六五
八月十三日	一二三、六五
八月十四日	一二三、六五
八月十五日	一二三、六五
八月十六日	一二三、六五
八月十七日	一二三、六五
八月十八日	一二三、六五
八月十九日	一二三、六五
八月二十日	一二三、六五
八月二十一日	一二三、六五
八月二十二日	一二三、六五
八月二十三日	一二三、六五
八月二十四日	一二三、六五
八月二十五日	一二三、六五
八月二十六日	一二三、六五
八月二十七日	一二三、六五
八月二十八日	一二三、六五
八月二十九日	一二三、六五
八月三十日	一二三、六五
八月三十一日	一二三、六五
九月一日	一二三、六五
九月二日	一二三、六五
九月三日	一二三、六五
九月四日	一二三、六五
九月五日	一二三、六五
九月六日	一二三、六五
九月七日	一二三、六五
九月八日	一二三、六五
九月九日	一二三、六五
九月十日	一二三、六五
九月十一日	一二三、六五
九月十二日	一二三、六五
九月十三日	一二三、六五
九月十四日	一二三、六五
九月十五日	一二三、六五
九月十六日	一二三、六五
九月十七日	一二三、六五
九月十八日	一二三、六五
九月十九日	一二三、六五
九月二十日	一二三、六五
九月二十一日	一二三、六五
九月二十二日	一二三、六五
九月二十三日	一二三、六五
九月二十四日	一二三、六五
九月二十五日	一二三、六五
九月二十六日	一二三、六五
九月二十七日	一二三、六五
九月二十八日	一二三、六五
九月二十九日	一二三、六五
九月三十日	一二三、六五
十月一日	一二三、六五
十月二日	一二三、六五
十月三日	一二三、六五
十月四日	一二三、六五
十月五日	一二三、六五
十月六日	一二三、六五
十月七日	一二三、六五
十月八日	一二三、六五
十月九日	一二三、六五
十月十日	一二三、六五
十月十一日	一二三、六五
十月十二日	一二三、六五
十月十三日	一二三、六五
十月十四日	一二三、六五
十月十五日	一二三、六五
十月十六日	一二三、六五
十月十七日	一二三、六五
十月十八日	一二三、六五
十月十九日	一二三、六五
十月二十日	一二三、六五
十月二十一日	一二三、六五
十月二十二日	一二三、六五
十月二十三日	一二三、六五
十月二十四日	一二三、六五
十月二十五日	一二三、六五
十月二十六日	一二三、六五
十月二十七日	一二三、六五
十月二十八日	一二三、六五
十月二十九日	一二三、六五
十月三十日	一二三、六五
十月三十一日	一二三、六五
十一月一日	一二三、六五
十一月二日	一二三、六五
十一月三日	一二三、六五
十一月四日	一二三、六五
十一月五日	一二三、六五
十一月六日	一二三、六五
十一月七日	一二三、六五
十一月八日	一二三、六五
十一月九日	一二三、六五
十一月十日	一二三、六五
十一月十一日	一二三、六五
十一月十二日	一二三、六五
十一月十三日	一二三、六五
十一月十四日	一二三、六五
十一月十五日	一二三、六五
十一月十六日	一二三、六五
十一月十七日	一二三、六五
十一月十八日	一二三、六五
十一月十九日	一二三、六五
十一月二十日	一二三、六五
十一月二十一日	一二三、六五
十一月二十二日	一二三、六五
十一月二十三日	一二三、六五
十一月二十四日	一二三、六五
十一月二十五日	一二三、六五
十一月二十六日	一二三、六五
十一月二十七日	一二三、六五
十一月二十八日	一二三、六五
十一月二十九日	一二三、六五
十一月三十日	一二三、六五
十二月一日	一二三、六五
十二月二日	一二三、六五
十二月三日	一二三、六五
十二月四日	一二三、六五
十二月五日	一二三、六五
十二月六日	一二三、六五
十二月七日	一二三、六五
十二月八日	一二三、六五
十二月九日	一二三、六五
十二月十日	一二三、六五
十二月十一日	一二三、六五
十二月十二日	一二三、六五
十二月十三日	一二三、六五
十二月十四日	一二三、六五
十二月十五日	一二三、六五
十二月十六日	一二三、六五
十二月十七日	一二三、六五
十二月十八日	一二三、六五
十二月十九日	一二三、六五
十二月二十日	一二三、六五
十二月二十一日	一二三、六五
十二月二十二日	一二三、六五
十二月二十三日	一二三、六五
十二月二十四日	一二三、六五
十二月二十五日	一二三、六五
十二月二十六日	一二三、六五
十二月二十七日	一二三、六五
十二月二十八日	一二三、六五
十二月二十九日	一二三、六五
十二月三十日	一二三、六五
十二月三十一日	一二三、六五
一月一日	一二三、六五
一月二日	一二三、六五
一月三日	一二三、六五
一月四日	一二三、六五
一月五日	一二三、六五
一月六日	一二三、六五
一月七日	一二三、六五
一月八日	一二三、六五
一月九日	一二三、六五
一月十日	一二三、六五
一月十一日	一二三、六五
一月十二日	一二三、六五
一月十三日	一二三、六五
一月十四日	一二三、六五
一月十五日	一二三、六五
一月十六日	一二三、六五
一月十七日	一二三、六五
一月十八日	一二三、六五
一月十九日	一二三、六五
一月二十日	一二三、六五
一月二十一日	一二三、六五
一月二十二日	一二三、六五
一月二十三日	一二三、六五
一月二十四日	一二三、六五
一月二十五日	一二三、六五
一月二十六日	一二三、六五
一月二十七日	一二三、六五
一月二十八日	一二三、六五
一月二十九日	一二三、六五
一月三十日	一二三、六五
一月三十一日	一二三、六五
二月一日	一二三、六五
二月二日	一二三、六五
二月三日	一二三、六五
二月四日	一二三、六五
二月五日	一二三、六五
二月六日	一二三、六五
二月七日	一二三、六五
二月八日	一二三、六五
二月九日	一二三、六五
二月十日	一二三、六五
二月十一日	一二三、六五
二月十二日	一二三、六五
二月十三日	一二三、六五
二月十四日	一二三、六五
二月十五日	一二三、六五
二月十六日	一二三、六五
二月十七日	一二三、六五
二月十八日	一二三、六五
二月十九日	一二三、六五
二月二十日	一二三、六五
二月二十一日	一二三、六五
二月二十二日	一二三、六五
二月二十三日	一二三、六五
二月二十四日	一二三、六五
二月二十五日	一二三、六五
二月二十六日	一二三、六五
二月二十七日	一二三、六五
二月二十八日	一二三、六五
二月二十九日	一二三、六五
二月三十日	一二三、六五
二月三十一日	一二三、六五
三月一日	一二三、六五
三月二日	一二三、六五
三月三日	一二三、六五
三月四日	一二三、六五
三月五日	一二三、六五
三月六日	一二三、六五
三月七日	一二三、六五
三月八日	一二三、六五
三月九日	一二三、六五
三月十日	一二三、六五
三月十一日	一二三、六五
三月十二日	一二三、六五
三月十三日	一二三、六五
三月十四日	一二三、六五
三月十五日	一二三、六五
三月十六日	一二三、六五
三月十七日	一二三、六五
三月十八日	一二三、六五
三月十九日	一二三、六五
三月二十日	一二三、六五
三月二十一日	一二三、六五
三月二十二日	一二三、六五
三月二十三日	一二三、六五
三月二十四日	一二三、六五
三月二十五日	一二三、六五
三月二十六日	一二三、六五
三月二十七日	一二三、六五
三月二十八日	一二三、六五
三月二十九日	一二三、六五
三月三十日	一二三、六五
三月三十一日	一二三、六五
四月一日	一二三、六五
四月二日	一二三、六五
四月三日	一二三、六五
四月四日	一二三、六五
四月五日	一二三、六五
四月六日	一二三、六五
四月七日	一二三、六五
四月八日	一二三、六五
四月九日	一二三、六五
四月十日	一二三、六五
四月十一日	一二三、

東京・丸ノ内　特選優良

帝國圖書普及會　圖書大特價提供

御挨拶　東京丸ノ内帝國圖書普及會力強い御後援に依り本會も創業五週年を迎へ臺灣全島讀書普及は今回が四回目に當ります毎年の事故出品書類は目新しいものをと努力して居ります本會が微力乍ら日進月歩其使命に邁進しつゝあるは偏に愛讀者各位の賜と感謝の外はありません尚例年の通り二月間は左の各地を巡回致します際御來會あらん事を希上ます……

◎本切品及閉會後の御注文は本部へ臺灣よりの送料は四種便の場合は記載の通り小包便は記載送料の約五割増となります本目錄以外多數會場に陳列して御座いますから是非御來場を願ます……

例年巡回地　基隆　義重町中央市場跡　一月二十八日より二十日まで五日間限り　彰化、臺南、嘉義、高雄、屏東　馬公、宜蘭、新竹、臺中

會期　壹月廿貳日より貳月五日迄（日延なし）

會場　臺北市榮町通り（二丁目）

自午前九時　至午後十時

◇辭典書籍學術工藝參考書

著者	書名	定價	特價	送料
松岡弘絅	詳解漢和大辭典	四五〇	一圓八十錢	二十四
文博士	俚諺大辭典	八〇〇	五圓十錢	二〇
文博士	明解漢和大辭典	三五〇	一圓八十錢	二〇
文學博士	最新漢和新辭典	二八〇	一圓八十錢	二〇
文學博士	漢和新辭典	二五〇	一圓六十錢	二〇
文學博士	大辭典（全部）	二八〇	一圓八十錢	二〇
文學博士	新式辭典	二五〇	一圓五十錢	二〇
文學博士	モダン臺百科辭典	五〇	二十錢	六
保科孝一	新辭林	二〇〇	八十錢	六
木村正辭	現代語辭典	一二〇	七十錢	一〇

著者	書名	定價	特價	送料
文學士	英國小品文學	一八〇	一圓十錢	一四
小笠原長生	爆彈三勇士	一八〇	一圓十錢	一四
竹友藻風	英國小品文學	一八〇	一圓十錢	一四
源永輝	世界大冒險家物語	一九〇	一圓十錢	一四
文學士	世界讀本	二〇〇	一圓十錢	一四
日本評論社	二十三人集	一〇〇	六十錢	一〇
古屋德重	カーライル全集（全十巻）	九〇〇	七十錢	一四
岡崎勇造	世界大衆文學全集（全十巻）	一〇〇	七十錢	一四
佐々木彌津	風雲天滿草紙	一〇〇	七十錢	一四
金子泰次	滿蒙獵奇秘話	一八〇	八十錢	一四
雪嶺山人	立川文庫（全十種各三）	各十	二	
三宅雪嶺	名作選集	一五〇	六十錢	一〇
高山樗牛	瀧口入道（外七篇）	一五〇	六十錢	一〇
文學士	日本墓面史	二〇〇	一圓十錢	一四
北村白眉	支那閨房秘史	二〇〇	八十錢	一四
本地正輔	繪入太閤記	一五〇	五十五錢	一〇
村上浪六	すてうり勘兵衛	一八〇	一圓二十錢	一四
伊藤痴遊	郷南洲（二巻組）	二八〇	二圓三十錢	一四
文學士	日本墓面史	二〇〇	一圓十錢	一四
村上浪六	不如歸（外七篇）	一五〇	六十錢	一〇
文學士	毒舌	一八〇	一圓二十錢	一四
吉川英治	近世劍客傳	一八〇	一圓二十錢	一四
中川兵一	鐵窓十三年	一五〇	五十五錢	一〇
綱木貞一	人肉變電所	一八〇	一圓二十錢	一四
伊藤痴遊	郷南洲（二巻組）	二八〇	二圓三十錢	一四
文學士	日本墓面史	二〇〇	一圓十錢	一四
本地正輔	繪入太閤記	一五〇	五十五錢	一〇
村上浪六	すてうり勘兵衛	一八〇	一圓二十錢	一四
綱井忠雄	土の上水の上	一〇〇	七十錢	一四
文學士	大辭典（全部）	二八〇	一圓八十錢	二〇
文學士	新式辭典	二五〇	一圓五十錢	一〇
文學士	モダン臺百科辭典	五〇	二十錢	六
保科孝一	新辭林	二〇〇	八十錢	六
木村正辭	現代語辭典	一二〇	七十錢	一〇

著者	書名	定價	特價	送料
文學士	詳解漢和大辭典	四五〇	一圓八十錢	二十四
文學士	俚諺大辭典	八〇〇	五圓十錢	二〇
文學士	明解漢和大辭典	三五〇	一圓八十錢	二〇
文學士	最新漢和新辭典	二八〇	一圓八十錢	二〇
文學士	漢和新辭典	二五〇	一圓六十錢	二〇
文學士	大辭典（全部）	二八〇	一圓八十錢	二〇
文學士	新式辭典	二五〇	一圓五十錢	一〇
文學士	モダン臺百科辭典	五〇	二十錢	六
保科孝一	新辭林	二〇〇	八十錢	六
木村正辭	現代語辭典	一二〇	七十錢	一〇

著者	書名	定價	特價	送料
文學士	新譯枕草子	一五〇	八十五錢	一〇
明治大學講師	將棋必勝寶典	一五〇	四十錢	一〇
文學士	源氏物語新講	二五〇	七十五錢	一四
小笠原長生	成吉思汗は源義經也	一八〇	一圓	一四
木村入陸	將棋新定跡	一八〇	一圓	一四
東京圖書館	刑事博物圖鑑（非賣品）	六圓三〇		
文學士	源氏物語新講	二五〇	七十五錢	一四
小笠原	成吉思汗は源義經也	一八〇	一圓	一四
木村入陸	將棋新定跡	一八〇	一圓	一四
文學士	新譯枕草子	一五〇	八十五錢	一〇
明治大學講師	將棋必勝寶典	一五〇	四十錢	一〇
東京圖書館	刑事博物圖鑑（非賣品）	六圓三〇		
文學士	源氏物語新講	二五〇	七十五錢	一四
小笠原長生	成吉思汗は源義經也	一八〇	一圓	一四
木村入陸	將棋新定跡	一八〇	一圓	一四

著者	書名	定價	特價	送料
大阪	實例商業書翰	三〇〇	一圓二十四	
松岡弘絅	詳解漢和大辭典	四五〇	一圓八十錢	二十四
文學士	俚諺大辭典	八〇〇	五圓十錢	二〇
文學士	明解漢和大辭典	三五〇	一圓八十錢	二〇
文學士	最新漢和新辭典	二八〇	一圓八十錢	二〇
文學士	漢和新辭典	二五〇	一圓六十錢	二〇
文學士	大辭典（全部）	二八〇	一圓八十錢	二〇
文學士	新式辭典	二五〇	一圓五十錢	一〇
文學士	モダン臺百科辭典	五〇	二十錢	六
保科孝一	新辭林	二〇〇	八十錢	六
木村正辭	現代語辭典	一二〇	七十錢	一〇

著者	書名	定價	特價	送料
文學士	新譯枕草子	一五〇	八十五錢	一〇
明治大學講師	將棋必勝寶典	一五〇	四十錢	一〇
文學士	源氏物語新講	二五〇	七十五錢	一四
小笠原長生	成吉思汗は源義經也	一八〇	一圓	一四
木村入陸	將棋新定跡	一八〇	一圓	一四
文學士	新譯枕草子	一五〇	八十五錢	一〇
明治大學講師	將棋必勝寶典	一五〇	四十錢	一〇

李王垠殿下 臺南市に御成

夜は熱誠罩めた提燈行列

【臺南電話】李垠殿下の御一行は午後五時半頃臺南驛に御到着、驛前には臺南州知事、市尹、市會議長、市助役、市會議員、市協議會員、各官公署長、各學校長、各團體代表者、在郷軍人分會長、青年團長、消防組長、各町内會長、各女學校生徒等の奉迎を受けられつゝ王殿殿下萬歳を高く唱ふる中を驛前より自動車にて御旅館林百貨店へ御入館遊ばされた、驛前には數萬の市民が殿下の御姿を一目拜せんと押すな押すなの大雑踏を呈し、殿下の御入館遊ばされるや一齊に萬歳を叫び、殿下の御姿を見送つた、驛前廣場には奉迎門が設けられ、其の前には兩側に緑の葉を以て飾られた大アーチが設けられ、其の中央には大きな菊の御紋章が輝いてゐた、驛前廣場から林百貨店に至る道路

中國馬尾海軍大學
諸艦長反對不肯入學
逐見無期延期將來或中止

南京軟府海軍部長陳紹寬又陳海軍部長。稱福州練習艦隊。南端。橫斷現在防風林。
經中國海軍將校。學識尚幼稚。爲期向上。在馬尾設海軍大學。使現任艦長。及部內各部長。入學修業。經聘請各國教官。校舍改築及內容設備。業已就緒。按海軍大學。
兩各艦長及司長。皆五十歲之老人組。不喜學校生活。且一旦入學。諸公費及交際費全無。恐是一同結束。提唱反對。致該校遂開設。逐無期延期。將來或至于中止。亦未可知。

李王垠殿下
在阿里山上過夜
靜聽奉迎夕之無線電音

李王垠殿下。二十二日。
蒞臨阿里山。入御伯所。
卸下旅裝。元氣旺盛。晚餐後。靜聽臺南放送局。
李王垠殿下。在阿里山御伯所過夜。翌二十三日早起床。是日阿里山。零下攝氏一度（午前五時）。附近降霜。呈淡銀色。天候晴。殿下由御伯所。眺望塔山其他。朝餐後。照所豫定。於午前九時四十分發御伯所。同九時五十二分。抵阿里山驛。受在住官民多數奉送。同九時五十二分。發同驛。一路向嘉義驛。由車窓。展望沿線風光。同十一時四十六分。抵嘉義驛。午餐。午後二時十六分。發同驛。同三時八分。無事抵嘉義驛。同驛乘縱貫線。向臺南云云。

琉球馬五十頭
決定買入

星製藥會社星一社長。昨年八月來臺。因同社規那事業。及善地交通運輸用。欲買琉球馬百頭。以現金二千五百圓。提供於警務局。聽其營旋購買。警務局乃與殖產局高等技師。帝大山根教授等。選格。努力斡旋。聞琉球產中等馬二頭五十圓。合運金須八十圓以上。厥後再爲文涉。警務局自身。此際亦欲購五十頭。
內二十頭送到臺北。其餘二十頭送於臺中州見培牧場。二方面分配。

翌早下山
向臺南
中央研究所恒春種畜場貸與北里山上過夜

李王垠殿下。二十二日。
中央研究所恒春種畜場貸與北里山上過夜。

李王垠殿下
在阿里山上過夜
靜聽奉迎夕之無線電音

李王垠殿下。二十二日。
蒞臨阿里山。入御伯所。
卸下旅裝。元氣旺盛。晚餐後。靜聽臺南放送局。
李王垠殿下。在阿里山御伯所過夜。翌二十三日早起床。是日阿里山。零下攝氏一度（午前五時）。附近降霜。呈淡銀色。天候晴。殿下由御伯所。眺望塔山其他。朝餐後。照所豫定。於午前九時四十分發御伯所。同九時五十二分。抵阿里山驛。受在住官民多數奉送。同九時五十二分。發同驛。一路向嘉義驛。由車窓。展望沿線風光。同十一時四十六

臺灣日日新報 夕刊
昭和十年一月十二日 木曜日 第一万二千五百五號
（第二版）（原稿記載）（昨日一部五月九日第三種郵便物認可）
一月二十三日 定価壹箇月金貳拾錢 夕刊共 臺北市北門町四丁目 臺灣日日新報社 電話若干番 編輯部 印刷所 入行盛

美濃部博士、舌端鋭く 人權蹂躙の事實暴露

帝人事件に關して 法理論と實際論から 貴族院に珍しくも拍手の波

【東京二十二日發】二十二日の貴族院本會議は我が國界の第十美濃部達吉氏が帝人事件に絡まる人權蹂躙問題に關し質問演説を行ふとの噂が傳はるや定刻から貴族院は勿論傍聽席も滿員の盛況を呈し午後一時十六分開會、議長に應かれた松平恒雄氏は登壇、先づ帝人事件の檢察當局の取調べ方法に關し、刑事事件の檢察に當り嚴かゝとも權力を濫用して司法部自らは法を蹂躙するが如きことあつてはならぬ、人身の自由は憲法の根本に關聯する問題であるから嚴重に取調べの上適當の處置を講ずる樣希望すると述べ、次いで美濃部達吉氏（勅選議員）登壇

【東京二十二日發】二十二日の貴族院本會議は我が國界の第十美濃部達吉氏が帝人事件に絡まる人權蹂躙問題に關し質問演説を行ふとの噂が傳はるや定刻から貴族院は勿論傍聽席も滿員の盛況を呈し午後一時十六分開會、議長に應かれた松平恒雄氏は登壇、先づ帝人事件の檢察當局の取調べ方法に關し、刑事事件の檢察に當り嚴かゝとも權力を濫用して司法部自らは法を蹂躙するが如きことあつてはならぬ、人身の自由は憲法の根本に關聯する問題であるから嚴重に取調べの上適當の處置を講ずる樣希望すると述べ、次いで美濃部達吉氏（勅選議員）登壇

刑事事件の檢察に當り嚴かゝとも權力を濫用して司法部自らは法を蹂躙するが如きことあつてはならぬ、人身の自由は憲法の根本に關聯する問題であるから嚴重に取調べの上適當の處置を講ずる樣希望すると述べ、次いで美濃部達吉氏（勅選議員）登壇

美濃部達吉氏（勅選議員）登壇

【東京二十二日發】貴族院本會議は午後一時十六分開會、議長に應かれた松平恒雄氏は登壇、先づ帝人事件の檢察當局の取調べ方法に關し、

阿里山上の靜けさ
ラヂオに興ぜらる
廿二日夜の李王殿下

阿里山へお登りの李王殿下
【上】見晴臺から御展望　【下】檜腦寮驛に御下車の殿下

【阿里山廿二日發電話】阿里山觀測所に一夜を過させられた李王殿下には二十三日早朝御起床あらせられた、此の日阿里山は李王殿下御成りを仰ぎ全山光榮に溢れた、夜となるや冷氣凄く露しく人の肌を刺す感あり、星月夜殿下には御機嫌殊の外麗しく、御泊所より一瞬の中に映る嶺山その他を眺め御就寢あらせられ御朝餐後御名殘を惜まれつつ愈々定通り午前九時四十分御泊所御殿前山の途に就かせられた、阿里山觀測所御殿の殿下には同九時五十二分阿里山驛御着、在住官民多數の歡迎を受ける奉迎を受けさせられ、同九時五十三分同驛御着、一路森林鐵に向はせられ、車窓より沿線各所に展開する風物と御歡望あらせられつつ同十二時四十分着祈年殿御着、御食事あらせられ、午後零時十分同驛御發、同二時八分無事奥山驛御着、直に御貴賓車に向はせらる

高山植物に
御造詣深し
佐治氏の談話

【上諏二十二日發電通】李王殿下の御成りを仰ぎ、佐治委員は左の如く謹話した

殿下には殊の外御健康麗しく、沿道の風光、植物など御興深げに眺めさせられ、殊に新高御展望に就きましては前回製本宮殿下が御展望あらせられたるを聞召され、御優しげに拜せられました、新高山を慶賀統にて御展望の上、御自ら十六ミリにて御撮影遊ばされました、伐木狀況御視察の際には大木の倒れる有樣を御珍らしげに御覽あらせられた樣に拜しました、本日は終日晃茶相なる快晴で、沿道の風光を賞でさせられ、到るところに於て細部にわたる御下問があり、殊に高山植物については御造詣深く、車中にわざ〳〵佐々木技手を御招きになり種々御下問あらせられました、又御泊り所に於ては高山植物を陳列して御覽に供しましたる上、高山植物の御自録を奉呈致しましたが非常な御喜びの樣に拜せられました、本日は終始極めて愉快なる御態度を以て我々に臨ませられた事は恐縮の至りであります

けふ御下山
臺南に向はせらる

【阿里山廿二日發電話】阿里山觀測所に一夜を過させられた李王殿下には二十三日早朝御起床あらせられた、同九時五十二分阿里山驛御着、在住官民多數の歡迎を受ける奉迎を受けさせられ、同九時五十三分同驛御發、一路森林鐵に向はせられ、車窓より沿線各所に展開する風物と御歡望あらせられつつ同十二時四十分着祈年殿御着、御食事あらせられ、午後零時十分同驛御發、同二時八分無事奥山驛御着、直に御貴賓車に向はせらる

【阿里山廿二日發電話】阿里山は李王殿下の御成りを仰ぎ全山光榮に溢れた、夜となるや冷氣凄く露しく人の肌を刺す感あり、星月夜殿下には御機嫌殊の外麗しく、御泊所より一瞬の中に映る嶺山その他を眺め御就寢あらせられ御朝餐後御名殘を惜まれつつ愈々定通り午前九時四十分御泊所御殿前山の途に就かせられた、阿里山觀測所御殿の殿下には同九時五十二分阿里山驛御着、在住官民多數の歡迎を受ける奉迎を受けさせられ、同九時五十三分同驛御發、一路森林鐵に向はせられ、車窓より沿線各所に展開する風物と御歡望あらせられつつ同十二時四十分着祈年殿御着、御食事あらせられ、午後零時十分同驛御發、同二時八分無事奥山驛御着、直に御貴賓車に向はせらる

南昌に
航空學校
設備一切を伊國式に

【上海二十二日發電通】支那側の

馬尾の海軍大學
開校延期さる
五十歳近い學生たちが
窮屈だと反對して

南京政府海軍部長陳紹寬は中國海軍將校の養成が急なるに鑑み、之れが向上を計る爲め馬尾に海軍大學を設置し現任艦長及び部内各司長自局員をも現役のまゝ入學修業せしむることに決定し、已に各國駐在官を招聘し

開校　する豫定であつた所が各艦長及び司長は皆五十歳近い老人組で中國の國情柔弱は一定の年限なく無差別に二十歳前後で大將になる例が多いけれども、海軍だけは若き將校が軍艦外國の如く指揮し運轉して居り、艦長司長も四十七八歳であるの今更新設な學校生活を好まないのと、艦長や司長は俸給外の公費や交際費が多いので、之等老人組の艦長等を學校へ

買收　して青年艦長を編成せしめ、之等老人組の艦長等を學校へ入學せんと慫慂し、愛方の説み合いがまず〳〵妥協に變化し如何にも海軍界の一大改革事件でもあるかの如く説いて居るが、然かも右は陳部長の今まで自分に反對であつた部長を追ひ出す爲に慫慂であつたが、愛陳部長が是非艦長を辭するなら海軍全員の委員に任命の上、艦長を辭しめ、反對分子を一網打盡にしやうと計畫したものであると

噴火山上の歐洲
いつ爆發するか判らない
堤正威氏の歸朝談

【基隆電話】商船會社支配人堤正威氏は今回歐洲大戰の危機がドイツの國力回復によつて一寸した導火線さへあれば爆發するであらうことを感じた、アメリカ人は軍備會議に對し一般的に賛成無關心である

井出翻譯官談　廣西省では

土地改良協會の
副會長が警察課長に
土井新營郡守語る

【嘉義電話】人權蹂躙問題として北斗の郡守と署長との衝突に就ては二十二日嘉南地方法院檢察局より電話あり嘉義支部井上檢察官が電話により現地新營郡の報告を聞き事實調査に取掛つたが村田警察部長は出張不在で出張所に於て其の方の仕事に關つたがけで嚴務系統の仕事に關つたがけで嚴務系統の仕事に關つたがけで嚴務系統

親鸞聖人

（105）

吉川英治作

山村耕花畫

去來篇

大和路へ（三）

七月の末だった。

かねてから、親鸞の信望であった大和の法華寺へ、逗留する筈ひが中堂の誦経所に寝泊りを許られて、彼は、この初秋を、感応に出た。

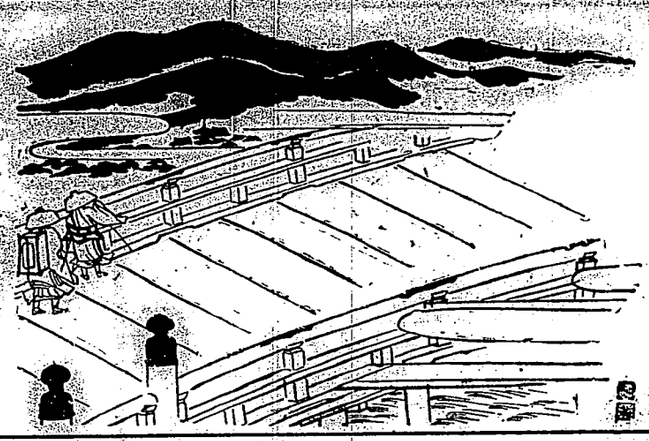
「何年ぶりの御下山でございましょう」

と、性蓮房は、無論、供に従ってきた。そして、下山するごとに感つてくる世間を見ることが、やはり軽い楽しみであるらしかった。

それでも、性蓮房の方は、慈や叩へ使に下りることが、年に数度かあったが、親鸞は、殆どそれがなかった。

「すべてが、昔前になった」

京都の町へ入ると、親鸞は、眼に見るものすべてに、感慨を感じ



「ごらんなさい」

と、性蓮房は、赤築の衛に立つて、指さした。

「——あの荒地の草原で、子供たちや、牛が遊んで居りまする。あれは、小松殿のお館のあった衛盛の跡でございます。又、右手の築邸には、平相国清盛どのの、西八條の館があったのですが、荒れ果てて、今は、誰の武者溜りになつて居りますことやら」

「感つたなあ」

親鸞は云つて、ふと、衛の衢から、見下ろすと、そこら行く加茂の水ばかりは、澄々として

赤壁賦

（四七）

石原西進筆

助物無駄無き世

星をつないで、あくせくと、足を速めてるるに過ぎないのだ。——

前馬の鼻にあつて、奥州へ逃げのびた源那王の義時も、短かくて儚やかなその生涯を、つい一年ほど前に閉ぢて、人もあらうに、兄の頼朝の兵に伐たれてしまった。

そして、その頼朝が、今では鎌倉に幕府をひらいて、天下に君臨してるるのであるから、平家の文化が一變して、世も、京洛も、加茂川の水までが、緑氏色に染め直されてしまつたのは當然な變遷なのである。

だが、餘りに眼まぐるしい人生の流相を見てしまつた民衆たちは（また、明日にも）

といふ不安と逼無感が消え去らないとみえて、往来の市人の顔には、どれもこれも、落着かない色が見えてるた。

「——行かうか」

親鸞は、さう見ながら、ただの聖水の法師のやうに、五條を北岸の方へ歩みだした。

最近著の新刊

▲持と般若と（二月號）▲蓮華経（二月號）▲浄土教概説（二月號）▲金剛般若ハンプレット（第百廿五號）▲初年倶舎部（二月號）▲金剛般若経（二月號）▲浄土教概説（二月號）▲浄土三部経（二月號）▲往生要集（二月號）▲教及文貝（二月號）▲浄土教概説（二月號）▲浄土教概説（二月號）▲浄土教概説（二月號）

早〇男子へ急告

醫學博士田村正雄先生

藥效御證明

性的破產阿早〇をほ早期射〇の事で、現代人に早期射〇の悲しべき結果について又圓る方が多數有るが、何か不感症の不安を感じて居る方は、何か不感因をなをめるべく、其の原因について、

臺灣地方制度改革案 貴族院通過確實

研究會且延拓相說明主旨構成

臺灣地方制度改革問題所關係其實施所俾算。近聞樞密院議長倉富勇三郎氏。貴族院各派交渉委員。及內閣書記官長。其他關係當局者。屢次會合。研究會議。最大會派如研究會。於其態度決定。特期慎重。於同和會事務所。與兒玉拓相。說明該案主旨。栃成等。顧此問題。一部或唱反對論。或態度未決定。不免多少波瀾。大體通過確實。二十五日都中有電云々。

花蓮港分館 鄉土色爲本位 外有各種催物

始政記念博花蓮港分館。

李王垠殿下 御覽伐木狀況

李王垠殿下。與阿里山鐵道問題。對于從來之調查。試向兒玉事業地。午後三時四分。抵兒玉驛。在御休憩所。遠望新高山峰。次由長友營林所長。說明集材機作業實況。約十五分。發同驛。次抵伐木御覽處。依長友出張所長說明。御覽伐木。木堂作業等。然後發同所。四時十九分。再抵阿里山驛。受阿里山在住官民奉迎。乘輕油內地櫻竝立山道。由佐治營林所長代理向導。於午後四時三十分抵御泊所云。

實收增加 內地米反昂

神戶二十二日本社特電。九年產內地實收額發表。稀有凶作全貌判明。市場更爲緊張。第一回豫想增二百萬石。竟超百九萬餘石。福氣者二昧貨占。清算市場異態。然高慎欲買者多。當無意外高慢。眼前有其上期待。亦不能參落。實收發表。政府料未慎必崩落。市場形勢竟迎行云。

日石錦水 三十號井瓦斯 廿六日噴出乎

日石錦水工場第三十號井。昨年六月二十三日掘鑿。日前深五千百十六米。忽噴出瓦斯。去十六日。舉水留作業。現正準備採取。來二十六日。應取噴出多量之瓦斯云。

入學試驗 科目決定

臺北州下各中等學校。新學期入學試驗。自二月二

日本丸實習生 訪問島都 出席茶話會

文部省航海練習船日本丸會之影片。至三時過辭去云

地方制度改正案 按四月一日公布

地方制度改正案。現于法制局審議中。本制案議。現在只爲字句訂正。意外不停滯進步。豫定于本月中審畢。由是關此問題。對中央政府一切折衝。已告結末。俟議會豫算審議。按照豫定。于四月一日公布云々。

萬華信利組 改選後世評

既報臺北市內萬華信用利用組合。第十三回總代會。去二十日。午前十一時半開于二林庄役場會議室。當日出席總代員九十二名。委任狀二十三名。臨席官藤堉郡守。內川州屬。石黑郡技手。井村郡屬。村井郡部會書記。其他多數來賓臨場。一同就席。許秦理奉讀戊申詔書。次林組合長就議長席。述開會

二林信組 開總代會

北斗郡二林信用購買利用組合。第十三回總代會。去二十日。午前十一時半開于二林庄役場會議室。當日出席總代員九十二名。委任狀二十三名。臨席官藤堉郡守。內川州屬。石黑郡技手。井村郡屬。村井郡部會書記。其他多數來賓臨場。一同就席。許秦理奉讀戊申詔書。次林組合長就議長席。述開會之辭。次報告協議會員出缺席。（缺席者田中濱次郎。連選明。許延壽。太田重助四氏）指名大塚才太郎。林鑑兩氏。爲會議錄署名者。及朗讀參與員。及書記氏名。次青木市尹就任祝辭。附議昭和九年度財產目錄。及借對照表。事業報告書。剩餘金處分案。決算報告書。附屬明細表。事業計劃書。收支豫算各書類。一齊提出。說明內容。次市尹說明本年度事業概要